

## 第 47 期 2ndQ GL 会議スピーチ

2019 年 7 月 5 日

### 『生き残る武器をつくる』

現在学生選考の真っ最中ですが、毎日なかなか優秀な大学から面接を受けに学生が金港町本社へやって来ます。フロウエルを受験する前に二桁の会社に不合格にされている学生に内定が出ない理由をどう自己分析しているか聞いてみると、多くの学生が答える理由があります。「面接に慣れていなくて自分のことをしっかりアピールできていません」そう答える学生にも 2 種類いて、本気でそう思っている人は採用しません。選考する側の人間から言わせると、アピールの技術が不足しているのではなく、アピール材料が不足しているからです。平たく言えばアピールできるものがなにもないから落ちるのです。

学生の時に学業も課外活動も平凡な結果しか出ていない人は、平凡な努力をしていた末に、3 年後にアピール材料の無い、大勢に埋められると見分けがつかない平凡な就活生になります。俗にいう「ひと山幾らの人材」ですね。15 年くらい前でしょうか。幼稚園や小学校低学年での運動会で「優劣がつくのはいけないことなので、おてて繋いでゴールしましょう」というスタイルの駆けっこが多くの学校で採用されて物議を醸していました。学校教育というのは、社会に出た後で使える武器を身につけるための戦闘訓練なのに、横並びを良しとする風潮で学んできた人が会社に入ってくる時期になっています。しかし人間社会は全て競争です。社内の従業員同士も、会社対会社のビジネスコンペティションも、国家間のグローバル競争も相手より秀でた何かを持っていなければ、優位に立つことはできません。競争に負ければ、勝ち組よりも低い生活を余儀なくされます。良し悪しは別にして、それが真理です。それを理解している人は差別化できる武器を身につけるために様々な努力を続けて勝ち組に入ります。一方負け組に入っている人は、真理が理解できていないので、ただただ文句を言っています。なんで自分の給料は低いんだ、なんで役職が上がらないんだ、もっと重要な仕事がしたい、云々。口しか武器がない人間は裏のネットワークで上を追い落として相対的に自分が浮上することを狙います。コードギアスというアニメで主人公のキメ台詞にこんな言葉があります。「撃っていいのは撃たれる覚悟のあるやつだけだ」。殺す相手に成り代わって、自分がその責任を担う覚悟が無い限り攻撃する資格はないという意味です。社長の文句を言っているのは、自分が社長に成り代わって会社を運営していく覚悟と気概がある社員だけです。前回この場で社長に成りたい人と聞いたら誰も手を上げなかったですが、つまりこの中に社長批判をする資格のある人はいないということ

ですね。そういう意味では、野党が国会で自民党の上げ足を取って審議を空転させているのは、自分たちが政権を担う気持ちがある分まだましですね。その能力があるかどうかは別として。能力は大事です。ビール飲みながら野球観戦している親父さん。監督の采配が裏目にでると酔った勢いで文句を言っています。「なんでそこでバントさすかな、ヒッティングに決まってるんだろ」これを聞いて「うちのお父さんてすごい、プロの監督より野球に詳しいんだ」と尊敬するのはせいぜい小学校低学年までです。アマチュアスポーツでも監督をしたことある人なら采配する人の気持ちがわかるので結果論で他人の批判は言いません。能力の低い・経験値がない人に限って文句が多いのも真理です。真理が分かっている人から見ると、この親父さんも能力が低く、人間性が未熟と看破されてしまい、相手にされなくなります。そうやって負け組は負け組だけで集まって文句を言い合い、傷をなめ合うことになります。

大学院時代の同級生にこんなことを言った男がいました。「勝つことが全てだ、勝つために生まれてきたんだ」(!) ビジネスの競争は熾烈で、我が社のコンペティターはすこぶる優秀な企業です。これくらい気概のある人材が社内に複数いないと勝てません。46期 3Qから『相互尊重の醸成について』→『学習する組織をつくる』→「経営人材を育てる」と4回連続同じような話をしてきました。なぜ長々とこんな話をしているかと言えば、皆さんはまだ間に合うからです。GL層は、勝ち組にも負け組にも入りうる三差路の前にいます。今が大切です。体力なのか知力なのか戦略的に選ぶのは各位自身ですが、生き残って勝ち組に入るための武器を身につける努力を今日からはじめましょう。

宜しく申し上げます。